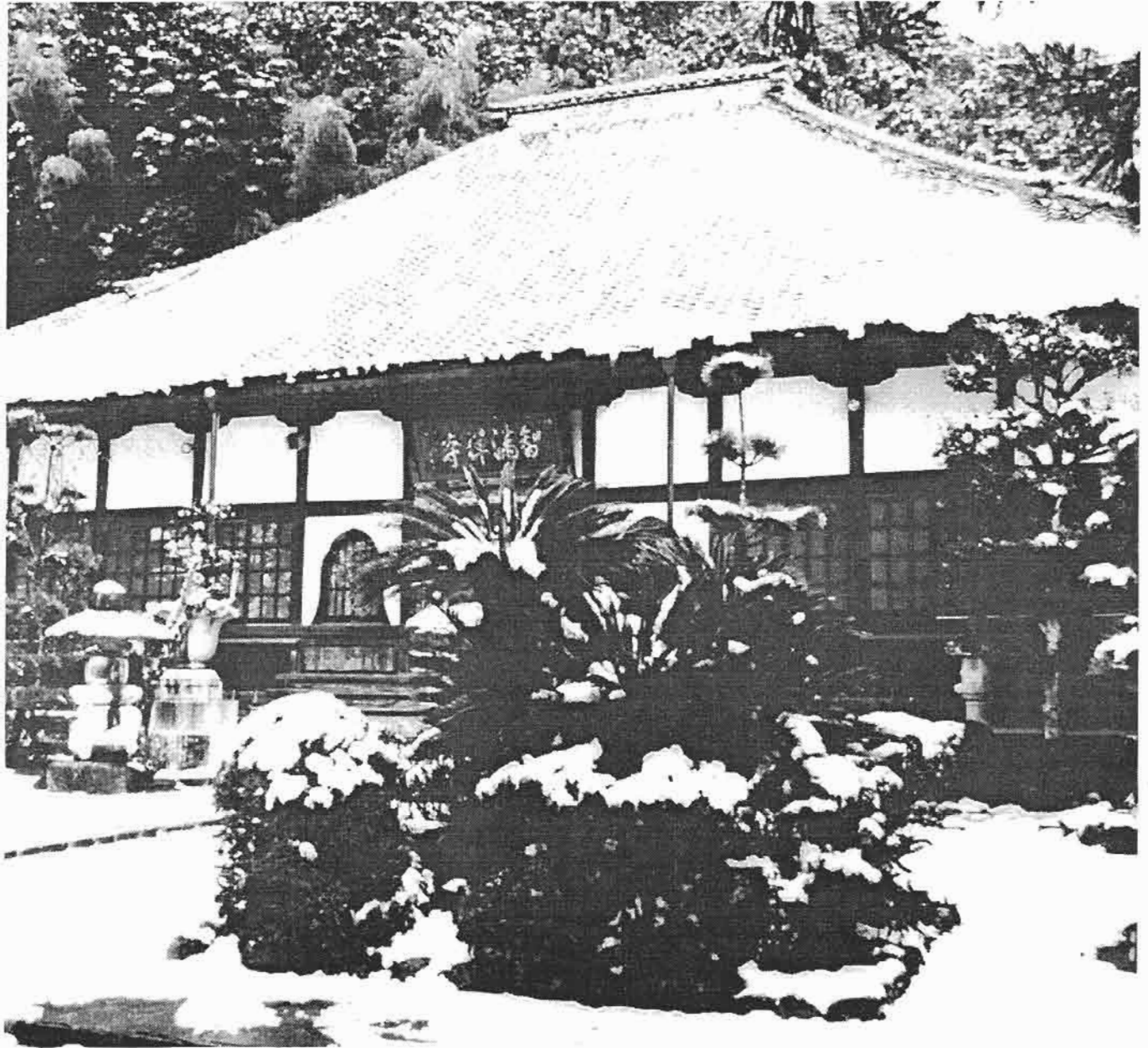


中川根ふる里通信

= 第40号 =

編集・発行・モアヲ中川根
連絡先 〒428-003
静岡県榛原郡中川根町上長尾
中川根ふる里通信係 ⁸⁵⁹⁻⁶
TEL 0547-56-0015
郵便振替口座 00870-4-81556



名刹 千葉山智満寺 雪景色

2月18日(日)は希に見る大雪でした。

千葉山智満寺について

中川根町内に、十五の地区がありますが、明治になるまで地区に一つや二つのお寺やお宮があり、特にお寺の方は現在の町役場の役目もしてまいりました。過去帳のみならず、尸籍簿の役割も重要な職務だった様です。現在上長尾の智満寺、徳山の大泉院、藤川の観天寺と、大きなお寺が残っております。ふる里通信でも過去に何回か載せた事があります。今回より紹介してみます。

千葉山智満寺、同じ山号、寺号が、島田市大津、千葉山に有ることは、皆さんご存知かと思えます。同じ山号、寺号、しかも、どちらにも有名なお寺、何かつながりがあるのかな？と疑問を持たれる方も多いと思います。——実は——ずっと昔、二寺は同じお寺だったのです。……島田の智満寺が上長尾へ逃げて来たのです。

その他、千手観音にまつわる伝説、信州 猫權家伝説、山門持伝説など、多くの語り伝わりのあるこの寺は、權家權徒の数も桁はずれに多く、水川、田野口地区以南、久野脇地名地区まで、町外葛籠、石風呂地区までの広範囲におよんでおります。

先年、中川根町史研究会で発刊した「中川根の屋号」より、当寺の歴史を繕ってまいります。

その昔、枝木山と三星山の中間付近の周智郡境の街道わきに、観音堂があり、千手観音様がまつられておりました。



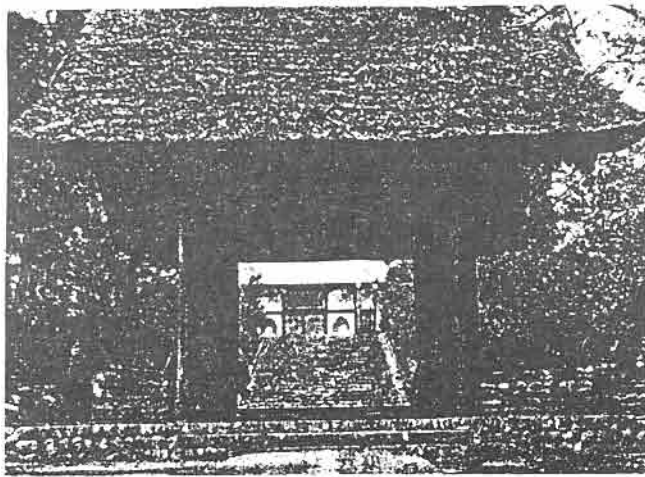
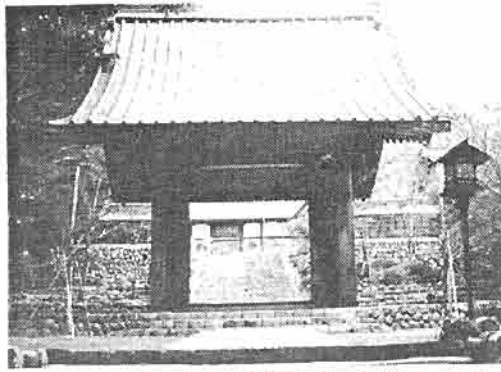
千手観世音菩薩立像

山号、千葉山、寺号、智満寺
 宗派、曹洞宗、久住山洞慶院末寺（静岡中羽鳥）
 法系、如仲派、回夫派本寺
 住職、第二四世、仙岳明正和尚、俗姓、藤田氏

智満寺の淵源は、島田大津ノ庄といわれ、宝龜二年（七七一）広智菩薩の開山と伝えられています。

後世、南北朝時代（一三三三〜一三九一）の前期、第三世洞空法印の次、代弟三三三（法号不詳）に至り、同寺の僧兵らがこぞって南朝に味方し、北朝方今川軍と大津に於て戦う。観心三年（一三五二）文和元年（九月八日）智満寺僧兵の味方した大津城落城により、城將土岐四郎左エ門（徳山城主、土岐山城守の一族）らと共に、住職以下全員敗走して河根に逃れ、無双嶺（本城山）にて翌文和三年二月十六日から二十五日かけて土岐考太郎（山城守）四郎左エ門、佐竹入道、葉科某らと共に、今川軍と戦い敗れている。智満寺一門は、これ以後、上長尾に隠棲して、やがて一寺を建立、これを千葉山智満寺と号し、天台の法燈をのけて、乱世を凌いだとされています。

これより一四〇五年後の延徳三年（一四九一）駿河国羽鳥ノ庄、久住山洞慶院第五世回夫慶文大和尚によって、曹洞宗に改宗されます。戦国期を経て徳川家康は幕府を創設し、寺社を中心とする行政の展開充実ははかり、原則として一集落一寺院を末端機構とする体形を組む。寺社奉行と中核として本格的に治世の実をあげてゆくが、この当時の智満寺は回夫派の派頭となつて、末寺五ヶ寺を有し、遠州三カ寺のひとつと称され、御朱印寺領二九石を給わり、十万石の格式を与えられた。格式は元来、寺院の加



写真上 智満寺山門 写真下 なつかしい
茅葺姿 窟法根河の朱文字が徽そかに
迎えてくれます。

護を目的とするものといわれ、鷲津の本興寺(日蓮宗五三石)なども格式は十石であります。
さて、本寺である洞慶院は、延徳から間もない文龜二年(一五〇二)住職を輪番制として、後、寛永一四年(一六三七)に至る三〇余年間も続け、独住職の三十年を挟んで再び輪番とし、明治六年政令によって停止されるまで続いた。それも一ヶ年ごとの交代で毎年八月一日を交代日としていました。この輪番のメンバーは、寺社奉行の公式文書によると、遠州飯田村崇信寺、駿州原田村永明寺、遠州土岐村智満寺、の三ヶ寺であるが、この場合の土岐村は上長尾村のことと奉行所の誤記ではないと思われ、永平寺貫主(総本山の管長の称)になられた丹羽禅師は、この本寺の住職であられました。その期

間(世代数)は十年に未だないものであったとの事です。開山は改宗智満寺より四十年古い享徳元年(一四五三)です。

明治元年(一八六八)「神仏分離令」の布達により、廢仏毀釈(仏教を排斥して、寺・仏像をこわすこと)で、特に牛頭天王系は一番の対象となったという)の風がおこり、末寺堂宇の整理統合などが行なわれ、更に明治四年には「宗門人別帳」「寺請制度」(戸籍関係)など、寺社が行政上の公式執務となっていたもの一切の管掌を停止します。

現在霊園に祀る古碑一基と、山門付近に台座する字石がありましたが、いずれも積年の風雪に蝕ばれて、文字の判読が困難な状態となっております。しかし、古碑は正面中央に「わすかに無阿・稱・の三文字が判読されます。ことから、「南無阿弥陀仏」と推定され、浄土宗の真言宗か、天台浄土兼宗か、いずれにしても曹洞宗改宗の建立かと思われ、碑面のみならず雰囲気もまた、数百年の歳月を消し去っているかのようであります。

本堂の大屋根の美しい瓦のすそ広がりを見ますと、これを禅寺の姿と思われる。近江近郷の人々の心のよりどころとなっており、山門から本堂へ通ずる石段は、上長尾小学校の児童生徒の記念写真にも多く登場してあります。延享二年(一七四五)に上長尾の大火によって、それまであった堂宇は焼失し、第一三世一音法牛大和尚の代の建立となっており、二五〇年余の世の中、うづろいとながめ、見守って下さっております。

平成七年度 中川根町茶業大会

「記念講演」

「揺れる静岡茶」を聴く。

講師 静岡新聞社編集局 仁科庄一氏



三月二十四日(日)町山村開発センターにて茶業大会が開催されました。茶業情勢報告や表彰がありました。中でもひときは引立った

全国茶品評会上位入賞等茶業功績表彰

技術功労部門

農林水産大臣賞 中野幸逸氏

おめでとうございました。

茶業大会スローガンは

- 一、消費動向を把握し、消費者に喜ばれる茶の生産をしよう。
- 一、地球にやさしいクリーンな茶づくりをしよう。
- 一、地域の特性を生かした香りある旨い茶の生産をしよう。

一、積局的な改植を進め、品種組み合わせによる経営の安定を図ろう。

大会終了後、記念講演となりましたが、去席茶業関係

者以外の聴講者が非常に少なかった点(特に女性)が大変気がかりになりました。「揺れる静岡茶」は、静岡新聞一面に、平成六年一月三日〜二月十四日迄三十四回の連載で仁科さんが手掛けられた記事です。静岡茶産地、特に川根地区民にとっては、正月気分もふつとぶ様な衝撃が走った事は、記憶に新しい事です。内容は五つの章に分かれ

ていました。「海外からの攻勢」「急追する鹿児島茶」「消える茶園」「課題抱える流通」「明日に向かって」でした。以下講演内容を、紹介致します。



連載当時、実は三十五回を予定しており、一回もなく終了しました。始めて間もなく、ものすごい反響がありました。①農家のやる気をなくすのか。②静岡茶を潰す気か。③鹿児島からいくら貰ったのか。……などの厳しい批判から、実際の状況はもっと厳しい、よくやってくれた。……の励まし言葉も少くはありませんでした。

終了後、県内外より沢山の講演依頼がありました。声のかからなかった地域は、静岡、清水と川根地域でした。か、今日、こうして中川根で講演出来る光栄です。題目も「揺れる」ではなく、「消える」が本場の表現と言えます。

さて、三年位前からお茶の消費が上向いて来た。と言われていますが、何の施策も目立っていない現在、あまり期待しない方がよいと思われれます。例えば、県の茶担当者、二、三年で部署が変わり本腰が入らない。農協も金融保険全盛時代で営農課にはお金がないから将来を見ず、た運営が出来ない。新地拡大により厳しい状況におい込まれたみかん農家も、畑面積が最盛期の半分になってやっとなり好転してきた、とかうも言える事です。又四年前、茶業界のターザットとなった輸入茶、四ロロトンもへるといふか現在では六五ロロトンにのぼっています。

何年か前から広大な土地、安い労働力、為替差益など、国内を見かぎり、海外へ進出した様な職業(種)の内、お茶も例外ではなく、始めは南アメリカ、ブラジルなど、近年は才

ヘントなどと計画したら全国の茶通が集まって来るかも。

※食へるお茶、そして世界的に伸びる。健康飲料・果立大学の小国伊太郎氏の論文は、「中川根」があったからこそ出来た。(同大薬学部富田勲氏の話では、煎茶では残留農薬が検出されなくても、茶葉を食べるとなると未だ問題は残されると聞いている)これからその需要は伸びる

将来、食へるお茶は十万吨、飲むお茶は十万吨、ドリンクは一万吨が予想される。安全な農薬がでない、が必須課題で、本当に安全なお茶をつくるのだ、と言う一人一人が自覚しなければ出せないことだ。

※中川根町にとって、川根茶産地の本拠地でありながら、川根町は川根茶と想っている人も多い。「中川根茶」と名づけたのは良い事だと思ふ。茶名館を情報発信基地として中川根茶を一層知らしめる努力をすれば、未来も開けるのではないか。



二時間におよぶ講演で、内容も豊富で、充分にお知らせ出来ないのが残念です。後、質問の時間が設けられましたが、一人の質問者も無く、意外に感じた次第です。しかし、聴講者のほとんどは、プロの中川根茶関係者、この記念講演も肥やしにして、茶業の活路を開いていくことを願っています。

昨年、昨年と続いた猛暑、早魘で、水と緑のふる里の樹木も脱水状態で、大切な茶樹も例外ではなく、立枯れの茶園が痛々しいかぎりです。今年は新芽があるかどうか判りません。

平成八年度 中川根町役場 人事

管理職総変え、新聞発表者及び新任部署のみ

この人達が町の行政を司っています

町長 鈴木 久 助役 小林 孟司 収入役 高畑 欽司

教育長 鈴木 康次 (新任)

総務課長 北原 嘉夫 企画調整課長 滝本 佳宏

税務課長 高木 善一 保健衛生課長 園田 宏太郎

産業課長 沢本 広 社会福祉課長 竹本 広実

町民課長 山本 真一 建設課長 中島 明男

教育委員 公事務局長 小坂 進

町議 公事務局長 中島 義明

学校給食センター 所長 小沢 秀己

総務課 行政係長 藤田 至 財政係長 西村 一

消防防災係長 栗原 卓

税務課 住民税係長 小坂 泰夫

町民課 戸籍住民係長 渡辺 清

社会福祉課 福祉係長 前田 修児

保健衛生課 健康係長 鳥本 宗幸

産業課 林政係長 鈴木 一男 商工観光係長 森下 睦夫

建設課 土木建築係長 大石 守広

農林土木係長 中村 茂

収入役室 会計係長 山本 銀男

退職 議事事務局 局長 松本 弘平

町民課長 前畑 清 敬者 略

空席となっており、た助役に久保尾の小林孟司さんが決まりました。



東海道
五拾三次
之内

金谷

名古屋市在住 山本久夫さんより(平谷出身)
すばらしい贈りものが届きました。

「広重の東海道五十三次の版画と浮世絵

風景画……計九十余点」

芸術鑑賞……日常生活におわれ、美術館も遠く、なかなか来ない……です。一月下旬、教育長さんに、届けて采ました。町民ギャラリーその他の所で、かざっていた、だき、町民の皆さん、子供から大人まで、生の芸術鑑賞を心ゆくまで味わっていた

前略

山本さんよりの便り

前略

ふる里は遠きに在りて思うもの、の句節を思ひおします。

あの山、あの川、

あの町、この町、

あの人、この人、

あの友、この友、

ふる里を持つ者の、あわせを感じます。

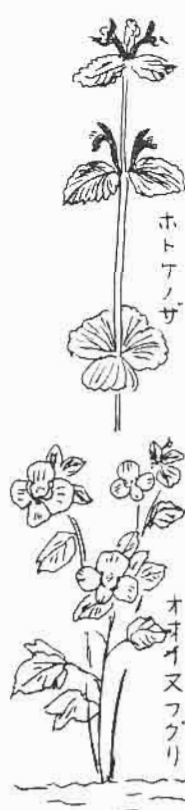
扱て唐突の案内で恐縮ですが、実

は、版画の覆刻版ですが、昭和五十年初め頃に発行された広重の東海道五十三次の版画を所蔵と謂うほどのものではありませんが、所持して居ります。所望でしたら寄贈したいと思ひます。

町役場に常設のギャラリーが設置されているとか伺い知りました。アートに興味のある方等の鑑賞の友になればと思ひます。如何でしょうか、御返事を下さい。

五十三次といわれてはいますか、実際には五十五枚です。広重の落款があるから相違ありません。又、十九世紀頃のヨーロッパ(フランス)のアートに画法として大きな刺激を与えたという美人画(浮世絵)と風景画は余り知られていないかもしれぬ。それ、二十枚位の覆刻版もあります。私一人の所蔵で終るのは覆刻版ではありませんが、死蔵になってしまひます。皆様の目に触れる事が出来れば価値も生きるかも知れません。

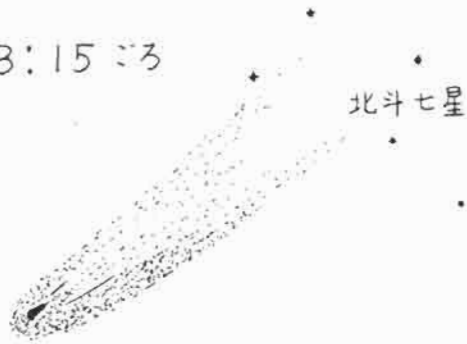
ふる里通信のさらなる発展を祈念します。



山本さん、大切な所蔵品を

お贈りいただいた、本当にありがとうございます。ふる里通信の方の贈りものとしていた、たくには荷物が重すぎましたので、町教育委員会の所蔵とさせていたいただきました。私も役目が終わってほっとしておりますが、こうしてふる里を想って下さっている方、ふる里への素晴らしいプレゼントの橋渡し役を務めさせていただきます。ありがとうございました。

3月26日 PM 23:15ごろ



北斗七星

おおぐま座

北極星

こぐま座

観測できた日

- ★ 3月22日 21:00頃
東北東、アルファウルス付近
 - ★ 3月25日 19:30 ~ 20:30
北斗七星柄杓の柄杓付近
 - ★ 3月26日 23:00 ~ 24:00
北極星に近い北斗七星の間
- 3/21 3/22 3/23 3/24 3/25 3/26 3/27 3/28 3/29 3/30 3/31
は 雨天 曇天

百武彗星見えました!

(1996 B2)

★ 初めての体験 感激しました。

春の空は気まぐれ、しかも月齢が満ちて来る時期、月の光がまぶしすぎて星が見えにくい。スギ花粉は少ないけれども霞がかかっている。……見られないかな。の不安はありましたか。天翔ける女神は期待どおり長い髪をなびかせて、ほほえんでくれました。10日間で観測できた日は3日。それも雲が流れ来ての合間でしたか。見られて本当にラッキーでした。

皆さんの所では見えましたか。都市部ではスモッグと光害も加わって、美しい空はなかなか見られないようです。こちらは素晴らしい星空がまた残っています。

「百武さん、440年に一度の宇宙ショー、ありがとう」

- ★ 22日 東の空に、赤く輝くうしろ座のアルファウルスの近くに、ポーと光る彗星発見。
- ★ 25日は天気も良く、地球に最接近する日ですから、望遠鏡、双眼鏡、カメラと設置して観測しました。天文台の写真の様にほとりも行かず、頭の部分だけほつきりと見えました。
- ★ 26日、曇天、もう寝ようかとあきらめた時、さっさと諦めたように、星が輝きはじめました。百武彗星は、東の空から、北極星付近と通って西の空へ毎日移動して行きます。この日は北極星と北斗七星の間の、目に付きやすい所でした。肉眼でも長い尾が見えました。頭の先の核は、明るくなったり、暗くなったりしていました。後日、この時間核が分裂したと東京天文台発表がありました。もしかしら、その瞬間だったかも知れませんね。



水の郷百選、かわね郷が認定されました。

国土庁は3月22日、東京の科学技術館で開いた「よびもとそう、水とのふれあいシンポジウム」の会場で、本年度分「水の郷百選」として新たに73地区を認定しました。

県内では、本川根町、中川根町、川根町にまたがる「かわね郷」と「天竜市」が認定されました。かわね郷は、大井川に清流を復活させ、河川環境の保全に積極的に取り組んでいることや、神事「平谷の流したい」などの伝統行事も伝承、保存しているのが認定理由。

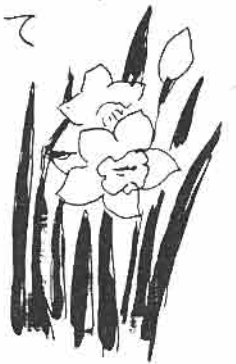
水の郷百選は、水環境の保全に努め、水を生かした町づくりに優れた効果を挙げている地域を国土庁が認定する制度で、全国107地域、内県内は3地域(三島市)となりました。

東京のかたすみから(13)

テレビの始めから終りまで

テレビ視聴率について

渡邊 實夫



いつだったか、藤川出身で東京中川根会の仲間である山元文夫さんから電話をいただいた。テレビ視聴率は、誰がどこでどんな方法で調べるのか、という内容であった。この年令になると何でもよいかから話しかけていた。けると大変嬉しい。特に私にとってはテレビのことについて、同郷の方から嬉しさは倍増する。有難くさえ感じる。

さて視聴率については多くの方が先のような疑問をお持ちのことと思うので、今回はそのことについて述べてみようと思う。

視聴率はテレビ局が調べるのではない。テレビ局とは完全に独立しているビデオリサーチとニールセンという二社によって視聴率の調査が行われている。

もし各テレビ局が調べるとしたら、自分の局の番組の視聴率がトップになってしまふだろう。この視聴率だけは、どのテレビ局でも勝手に出来ないものである。

私達も未だ一度もお目にかかったことのない視聴率を測る装置は、関東一円でいえば約千四百万世帯のうち約三百万世帯に取り付けられており、その家庭で見た時刻とテレビ局名が記録されるようになっていくというところである。但し、選ばれた世帯の中からはマスコミ関係者の家は勿論はずされている。

調査の始まった昭和三十七年頃は、調査会社はこの三百万世帯を廻って一週間分の記録されたデータを集めて各局別に集計し視聴率を算出した。現在では、個別に集めて廻る代りに電話線で送られて来る、そして作製した視聴率表をテレビ局に配布する。テレビ局はこの視聴率をみて、あの番組は良い、この番組は何とかしなくては、と言って視聴率の高い低いに一喜一憂するのである。

皆さんはここで変に思われるだろう。約千四百万世帯のうち三百万世帯というのは約四万七千分の一ということである。それで全体を押し測るのが果して正確と言えるだろうか？これには統計上のちゃんとした根拠があるという。即ちサンプル調査といわれるもので、国勢調査の台帳を基にしてバランスがとれるように調査世帯を選び出せば、この割合で誤差は許容範囲に入るのだそうだ。この視聴率の良し悪しが、民放テレビ局にとっては営業収入の増減につながり、NHKにとっては受信料の集金に影響しかねないのである。

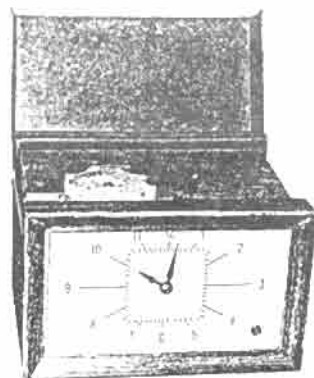
ここで断っておかなくてはならないのは、われわれテレビ局員には三百万台の視聴率測定機械が何処の家にも置かれていないか全くわからないようになっていて、調査会社の方では、設置した家庭とは絶対に口外しないようにも契約を結び、仮にテレビが故障した場合は会社が修理し、街の電気屋などには出さないようにしている。

このようにテレビの視聴率は極秘のうちに厳重に管理処理されて出て来る。そして唯一信頼のおける資料としてテレビ各局、広告代理店、スポンサーに配られるのである。

まほろしの視聴率測定装置の写真を次に示します。



ビデオリサーチ



ニールセン
角問 隆著
テレビは魔物かより

平島廉久著
「検証視聴率」より

テレビ視聴率について思い出すのは、私が編成局に勤務していた時のこと。局長は前回ちよっと触れた、私を元気づけてくれた男、やり手の故三浦中子二氏で、当時の彼はテレビ朝日の番組編成種を一手に握り、テレビ朝日の発展、成長の責任を双肩に担っていた。

毎週水曜日に行われる三浦氏率いる編成局会議は、形式的なセレモニーは飛ばして、「視聴率をどうして上げるか」「視聴率の良い番組をどうして制作するか」と具体的な話で実になまなましい露骨な話題も出た。

各テレビ局共、テレビ企業の経営、発展、消沈がかかっている。編成局の会議上の話は機密事項が多かった。一般の会議と云えば総論賛成、各論反対、そして建前論が多く、本音の事になると「ここからオフレコだよ」などと云って、小さな声で内緒話になったり小田原評定で終ることが多かった。

しかし三浦氏は豪放磊落な人で、視聴率の話でも戦略、戦術をオープンに声高にしゃべりまくった。そこが他の経営者と違うのである。

会議中不意に「おい、實(私のこと)、視聴率の測定機械を付けている家を見つけて来い。二百万円とテレビ一台を持って行け」という。持って行ったテレビは好きなチャンネルを見てもらい、機械のついているテレビはテレビ朝日のチャンネルに合わせてくれと頼んで、二百万円おいて来い」と、勿論冗談であるが本音も10%位あったと思う。そんなことが若し実現できればテレビ朝日の視聴率がグリーンと上る、というわけだ。

深夜「テレビ朝日か、俺の家に視聴率を測る機械を置いてあるが……」と云う電話を受けたことがあった。翌日その家に電話をすると、おのみさんが出て「うちの父ちゃん、酒に酔うとテレビ局へ変な電話をかけて困るんです……」と、酒癖の悪い旦那をもって恥ずかしそうに、すまなそうに声を聞いたことがあった。

あるテレビ局はなんとか視聴率を上げたいと考えた末、苦肉の策を考えた。朝早く調査会社の前で、視聴率を集めに行く調査員が現われるのを待って彼の車の後をつけて行き、測定機械の入っている家を見つければよいのだが、途中ではぐらかされて見失ってしまったという話。

それでも何とか見付けたいと、今度は報道用のスピードの出るオートバイで後をつけて行ったところ、途中ひっくり返って大怪我をして失敗してしまった話。

次は人間くさい日本人的発想で、調査会社の社長の娘をテレビ局に採用入社させたから視聴率が上がるのではなにか……と、これ以上は人事の機密事項で説明できないが、これによって視聴率が上がったと云う話も聞かない。

大阪の某テレビ局のことであるが、どうも視聴率が悪い。そこで調査会社の担当者と呼んで「こんなうちの局だ

け悪いなら、高い契約、加盟料を拂うのはもったいない。調査契約を取消したい。と伝えたら翌週から視聴率が上がったと云う嘘か誠かわからない話など……こうした「まことしやかな」伝説は数多くあるが、その真偽の程は確かめようがなく未確認情報である。

余談になるが三浦氏は益・暮の時期になると「中元・歳暮は速く届けるように」と、そして「偉くなりたいたい」は、希望を紙に書いて秘書のところへ出しておくようにし、会議中タイミングよく大声を上げるこゝろがあった。この発言は頭の回転の悪いわれわれの発想の転換をねらったものだと思ふ。しかし私は編成局在職中一度も昇格しなかった。

さて、何故テレビ局の中核といわれる編成局で朝から晩まで視聴率騒ぎにあけくれているか。と云うと、視聴率が公正と認知される故に絶対的物差しとして權威をふるい、テレビ局の人気を左右し社運を左右するという生殺与奪の鍵を握るからである。われわれは視聴者が放送に対して何を望んでいるかを知り、手当をしなければならぬ。金を出しているスポンサーは自社の広告がどの位の人に見られているか測りたい。テレビ局員にとって勤務評定となり、視聴率がよいと廊下の真中を口笛を吹いて心なしか肩をやらせ気味で歩くが、一方悪いと廊下の片端を歩き会社を休みたくなるのである。しかし視聴率が高ければすべて良しと云うものでもない。視聴率がよくてもいわゆる低俗番組の多いことはテレビ愛好家の皆様のほうがよくご存知だろう。番組の質が良ければ視聴率が上るとも限らない。番組のテレビ局やスポンサーの側からみると視聴者の質や

種類も又関心のあるところである。金持ちで購買力のある視聴者でなければ広告の宣伝効果は上らない。スポンサーとすれば商品や子供に売りたいのか、ヤング層か、老人か、女性か男性かによって狙いが違ふのである。そんな意味で今後の視聴率調査は更に多角的に細分化され、その結果テレビ局間及びスポンサー間の競争は激化するだろう。

一九九六年一月二十五日 記

追記

前回の「事件と裏方」の中心人物、元日本テレビ専務松本幸輝久氏にふる里通信をお届けし、定期購読とお願ひしようと考えていたところ、お届けする直前に八十三歳で急逝されました。ご冥福をお祈りします。

大井川 みずウォーク96年
中川根町を歩こう

日時 4月28日(日) 10時
集合場所 大井川鉄道 徳山駅
コース 徳山ー 下泉まで
大井川を下る

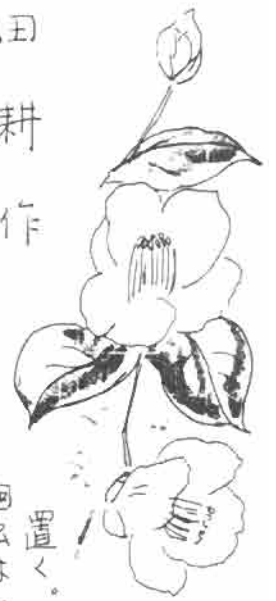
会費 500円
弁当持参、全長10km位
関東中川根の会 中野唯司さんが
計画して下さいました。

参加してみたい方は
★ 中野様 TEL 03-3402-3205
★ 小沢 TEL 0547-56-0015
★ 当日 徳山駅集合OK

ふるさと夜話

雪隠ものがたり

原田耕作



置く。

蛔虫の話をして五十年位迄の若い人達は知らないことと思うが、昔はせっちんに大関係のあった虫であるから、ついでに書き加えて

雪に隠れると書いて「せっちん」と読む。雪隠「せっちん」と読めは美しい文字であるが、事實は「せっちん」と読み、便所のことである。雪隠をなせ「せっちん」と言うが、理由は「せっちん」の連声であると言ふ。せっちん、せっちん、せっちん、と連声すると「せっちん」になってしまう。禅宗からきた言葉と辞典にある。

大抵、宅の寺院などの便所が、雪を冠った樹かけか、老松の下などにある場合、雪隠の呼称が最も小さくわしいと思ふが、事實は建物の構造にも場所にも関係無く昔から便所が「せっちん」と呼ばれていたのである。

現代の新築家屋の便所は、便利衛生を第一として、同じ棟内に設けて、各行は住居中唯一ヶ所外国語で呼んで居る。即ちトイレである。人間の大便小便が農作物の肥料として貴重な物であった時代が一変して、厄介な産物となったのは、戦後屎尿処理場の出来、水洗便所が設けられる様になつてからである。

農作業がすべて機械化し、手に鉄たこをつくり、手足にあの、され膏を焼き込んだりする必要が無くなったと同時に、茶園や野菜に屎尿を施す、とも無くなつてしまつた。屎尿を肥料として野菜や茶に用いる

事が無くなつてから第一に喜ぶべきことは、人間の腹中へきた蛔虫、即ち一般がエムシと言つた寄生虫が皆無となつたことである。



蛔虫は一般にエムシと言つて、仕事の相手が土である百姓に最も縁の深い害虫である。蛔虫は長さも太さもミミズそっくりで色は白い。蛔虫は人間の腸内で成長して腸内に産卵する。この卵が糞と共に便所に入る。その糞を肥料とするために蛔虫の卵が野菜や果物に附着して、また人の口から体内にはいる。食物から体内に入るばかりでなく、爪の間、毛穴からも体内に入ったと言ふ。成長した蛔虫は腸壁に食ひ入つて腹痛を起し、子供が貧血になることがあつた。

蛔虫の駆除には海仁草かいじんそうという海草を煎じて飲むことが最も効果があるため時々学校でこの薬草を配つて子供に飲ませたものである。海仁草の煎汁を呑むと一度に何十匹もの蛔虫が出て、腹の中に、こんなに沢山虫が居たのかとおどろいた。今では全くエムシの話聞いたことがない。人糞を肥料となくなつたためである。

農家で屎尿を肥料とした時代の便所即ち「せっちん」は、径三メートル深さ二メートルもある穴を土間に掘つて赤土で側壁をたたき固めたり、セメントを塗つたりした。これを肥溜めと言つて耕地の広い農家では二つも三つも造る家があつた。この肥溜めに炊事や風呂で使つた水も流し入れて屎尿と共に肥料とした。

肥溜めには板を張つて排便した。山小屋の便所同様なものだつた。肥溜めのある建物を「せっちんや、ちようすや、うんこや、くせんや、

と言って昔の百姓は便所という呼称は、ちよ
つと上品な言葉になるためか、ほとんど使わ
なかった。

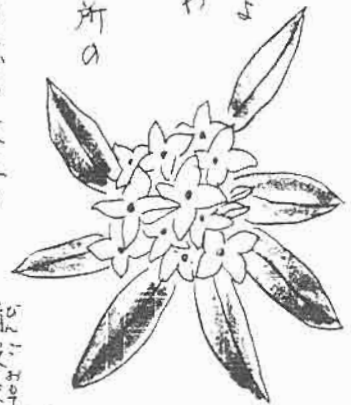
かわやという呼称は武士か上流社会の便所の
ことで当然百姓共の知らない言葉だった。

せっちん大工という言葉があった。腕前の悪い大工の
ことで、せっちん小屋位しか建て得ないと
言うことで、便所は最も粗末な建物だった事
がわかる。

昔ある絵師に貧袴という絵を描いてくれと頼んだとこ
ろ、せっちんの破れ庇からへちまが一つぶら下
っているところを描いたという話がある。

また昔「せっちんまんじゅう」という言葉もあ
った。こんな言葉も中川根で聞いたこと
はないが、意味は他人にかくれてうまい
事をやること、即ち場所をかまわずせ
ちんでまんじゅうでも何んでも食うと同
様なことと、平気でやるという事であ
る。せっちんがこの虫にとってはこの上
無く住み心地の良い所で住めば都であ
ったところか、クソン屋からトイレに
変わって住所を追われた気の毒な虫も
ある。

昔は便所が住居とかなり離れていて、
衆人往來の道路を距って在ったり、
屋敷より一段低い所に在ったりして、
夜は提灯をつけて行かなければなら
ず、雨降りには傘をさして行かなけ
ればならない家もあった。暴風雨や下
痢の時に思いやられる便所だった。
板を渡しただけの便所は冬はとて
も寒く、夏は蚊に攻められて大変だ
った。初めて客に来た人が、不案内
の便所に夜中に落ちて大騒ぎした家
があった。便所へ落ちると運がつくと



言って縁起が良いと言う説があるが、
ウンでも臭い運は余りよろこばしい
運ではない。

粗末な便所の話はかり書いたが、
一つ豪華な便所について書くと、
徳川家康の江戸城の雪隠は備後表の
青畳、書見台の備えもあつたとい
う、家康はそこで「鳴かずば鳴く
まで待とう」といふことと、
「鳴かずば鳴くまで待とう」とい
ふことと、
「鳴かずば鳴くまで待とう」とい
ふことと、
「鳴かずば鳴くまで待とう」とい
ふことと、

遠州の山犬信仰で有名なある寺院
では明治時代のいつ頃までか、
便所を崖に造つてあつて、参拜客
は霊山に垂落したといふことであ
る。落した物は、からすや獣の御馳
走になつたといふ。インドの聖なる
河がインジス河に舟で暮らす人達
は河に垂れ流して魚の食料にする
といふが、霊山の垂落しと聖河の
垂流とはどこか似たところがあ
つておもしろい。

最後の雪隠話であるが、これは老人
になつて初めて判る事であるが、
年寄りになると従来の便所ではし
ゃがんで立ち上ることが如何に苦
痛であるかといふことである。昔
の人は足腰が達者だったのか、
それとも苦痛を耐えたのか、
敬服の外は無い。現在では病院
公共施設では和式洋式両様の施設
があり、持物を置く場所の設備も
整えてくれて誠に有難いと思
う。昨年静岡新聞に「佐久間病
院長が書かれてあつた、
「病院の良一悪一は便所を一見
すれば判る」との言葉を改めて
思い起し雪隠ものがたりの筆を
置くことにする。



ふるさと夜話 第十三話 終り

次ページ上部へ続く

定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 年共 150円

皆様の定期購読がふる里通信の発行を支えます。年間4回の発行(季刊誌)を予定しております。今回で購読の切れる方初めてふる里通信をご覧になられる方には郵便振替用紙を同封致しますから引き続きご購読をお願いします。

年間予約600円(150円×4回)のご送金をおすすめしますが3年分位(1,800円)でもお預り申し上げます。

購読を止めたい時や、住所変更のおりも是非ご連絡下さい。

郵便払込通知票 00870-4-01556

加入者名 中川根ふる里通信係
ふる里通信に関する問い合わせ先・発行責任者 〒428-002

静岡県榛原郡中川根町上長尾 359-6

小沢節子

TEL 0547-56-0015



ふる里夜話の原田さんから電話が来ました。もちろん雪隠の件、三月十日静岡新聞日曜版、新狩野川紀行、天城湯ヶ島金竜山明徳寺の便所自身が神祿(仁祿?)として近郷に聞こえていたが、近年は「下の病氣封じに効くと参拜者でにぎわうという。
便所にはウスサマ明王を祭っており「先代のころ板をまたぐ粗末な便所でしたが、その中に三つ、五つと硬貨が落とされるようになり、それであきにさい、銭箱を置いたんです」と住職さん。「年間二十万人がやってきますハイ」
便所が信仰の対象になるとは、考えも付きませんでした。生を受けてすぐに始まる排泄、親の世話になり、亡くなるまで続く生理作用ほとんどの人が大かれ少なかれ他人の世話になる始末、何の神様より心を込めて感謝しなければ、バチが当たるのも知れない様に思われすした。



冬の号の発刊が大膽におくれましたこと、おゆるー下さい。私事で恐縮ですが、十二月十日に義母が体調を悪くして榛原病院へ入院致しました。年末には退院お来ると思っていたのに、日増しに悪くなってしまい、年を越せやうにないほどの状態でした。が、新年を迎え少し元気が出て、安心したのもつかの間、一月十四日永眠致しました。十三日に「おはあちゃん早く家に帰ろうね、いいベッド買おうから」、いっこり笑って「うん」と言った光景が思いおされてなりません。子供や孫、親戚、大勢の人達、病院や診療所の先生、看護婦さんに手厚い看護を受けて、又葬別には大勢の皆様に見送られて、幸せだったとやっこの頃考えるようになりました。
私の時間も十二月中旬から二月末まで、すっかり止ってしまい、何をやらうよいか、判らなくなってしまうました。まず、仕事(決算、税務確定申告...)として、ふる里通信とになってしまいました。この理め合わせは近いうち必ずさせていただきます。少し時間を下さい。

それにしても隣組十八軒の組長嶋達夫さんのご心労はいかばかりかと察しております。
十二月二日、小林睦さん、十六日小沢よるさん(二十六日文嶋文雄さん)そして一月十六日、小沢けいと、葬式の取仕切をして下さり、ご自分のお又様の告別もしなければならず、わずか一ヶ月半に四件とは、これが高齢社会か。と実感し、背すじが冷たくなりました。高齢にて、子供の所へ身をよせた金沢より、るさんを加えて、我が隣組はいっきに十五軒とさみしくなりました。